

【根羽村】 校務DX計画

2026年1月

		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	※留意事項
共通項目	FAX・押印の原則廃止に取り組んだ学校の割合	0%	100%	100%	100%	100%	・クラウドツールの未活用やFAXでのやり取り・押印の見直し、不合理な手入力作業の一扫については、校務の効率化・ペーパーレス化の大きな阻害要因になっているものであることに十分留意すること。
	不合理な手入力作業の一扫に取り組んだ学校の割合	0%	0%	100%	100%	100%	
	クラウド環境を活用した校務DXの徹底に取り組んだ学校の割合	0%	0%	100%	100%	100%	
選択項目	3.学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信している学校の割合	0%	100%	100%	100%	100%	・自治体として力を入れたい内容をリストから選択する。 ・選択肢はGIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリストの34項目より作成。自己点検の結果等を踏まえつつ、教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題を選択する。
	9.1人1台端末を児童生徒に持ち帰らせ、家庭で利用できるようにしている学校の割合	100%	100%	100%	100%	100%	
	19.職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れている学校の割合	100%	100%	100%	100%	100%	
課題と解決策の具体	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題	・校務DXについて、学校管理職及び教職員への理解 ・校務DXについて、運用方法、個人データの保護や管理についての保護者の理解 ・ICTを活用するための校内体制づくり、苦手とする職員への支援					
	教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目を実現する上で障害となる課題の解決策	・学校管理職を対象とする研修会の開催、専門家の学校訪問による支援、校長会等での情報共有 ・保護者を対象とするウェブサイト等による情報発信 ・ICT支援員やGIGAスクール運営支援センターによる支援、苦手とする職員を対象とする研修会の開催					
	校務系ネットワーク・システム等の現状分析や、望ましい校務の在り方に関する検討の計画	・校務システムから次世代校務システムに移行するために、ネットワークの環境整備を検討し、必要に応じて更新を行う。 ・教職員が次世代校務システムに対応できる支援を行う。 ・望ましい校務の在り方となるよう、情報収集し、改善に向けて検討する。					